

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年11月14日
【四半期会計期間】	第180期第2四半期（自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日）
【会社名】	品川リフラクトリーズ株式会社
【英訳名】	SHINAGAWA REFRACTORIES CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 相川 貢
【本店の所在の場所】	東京都千代田区大手町二丁目2番1号
【電話番号】	03（6265）1600
【事務連絡者氏名】	執行役員経理部長 山脇 敏弘
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区大手町二丁目2番1号
【電話番号】	03（6265）1600
【事務連絡者氏名】	執行役員経理部長 山脇 敏弘
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 証券会員制法人札幌証券取引所 （札幌市中央区南一条西五丁目14番地の1）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第179期 第2四半期連結 累計期間	第180期 第2四半期連結 累計期間	第179期
会計期間	自平成24年4月1日 至平成24年9月30日	自平成25年4月1日 至平成25年9月30日	自平成24年4月1日 至平成25年3月31日
売上高(百万円)	49,197	47,452	99,204
経常利益(百万円)	2,586	1,834	5,154
四半期(当期)純利益(百万円)	742	1,722	2,576
四半期包括利益又は包括利益(百万円)	700	3,721	4,852
純資産額(百万円)	38,962	46,193	42,847
総資産額(百万円)	103,085	108,751	106,681
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	7.87	18.27	27.33
潜在株式調整後1株当たり四半期(当 期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	33.4	37.8	35.6
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	2,104	4,412	6,064
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	1,537	1,003	2,808
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	1,847	2,312	2,707
現金及び現金同等物の四半期末(期末) 残高(百万円)	8,211	11,395	10,153

回次	第179期 第2四半期連結 会計期間	第180期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自平成24年7月1日 至平成24年9月30日	自平成25年7月1日 至平成25年9月30日
1株当たり四半期純利益金額又は1株当 たり四半期純損失金額()(円)	0.62	14.02

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間の我が国経済は、自動車等輸出産業を中心として企業業績に大幅な改善がみられ、設備投資も増加に転じるなど国内景気が活力を取り戻しつつある中で推移しました。

耐火物業界の最大の需要先である鉄鋼業界におきましては、堅調な国内需要に支えられ、当第2四半期累計の粗鋼生産は前年同期比1.9%増加の5,579万トンとなりました。

このような状況の中、当社のセグメント別の業績は以下のとおりとなりました。

<耐火物及び関連製品>

耐火物及び関連製品事業におきましては、国内向け販売における建設用大型案件の減少と価格競争の激化、および海外子会社の売上高減少により、売上高は前年同四半期比3.9%減の349億68百万円、セグメント利益は円安による原燃料価格の上昇も加わり42.3%減の14億30百万円となりました。

<エンジニアリング>

エンジニアリング事業におきましては、売上高は前年同四半期比2.4%減の112億30百万円となりましたが、収益改善への継続的な取り組みによりセグメント利益は56.7%増の2億57百万円となりました。

<不動産・レジャー等>

不動産・レジャー等事業におきましては、売上高は前年同四半期比3.9%減の12億53百万円となりましたが、大規模修繕費の減少によりセグメント利益は9.9%増の6億9百万円となりました。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、投資有価証券評価額の増加を主たる要因として前連結会計年度末に比べ20億70百万円増加し、1,087億51百万円となりました。

負債は、支払手形及び買掛金の減少を主たる要因として前連結会計年度末に比べ12億75百万円減少し、625億57百万円となりました。

純資産は、利益剰余金およびその他有価証券評価差額金の増加を主たる要因として前連結会計年度末に比べ33億46百万円増加し、461億93百万円となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ12億42百万円増加し、当第2四半期連結会計期間末には113億95百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

<営業活動によるキャッシュ・フロー>

営業活動の結果得られた資金は44億12百万円（前年同四半期比109.7%増）となりました。これは主に「税金等調整前四半期純利益」25億70百万円、「未払金の増減額」23億30百万円、「売上債権の増減額」14億59百万円等による増加と、「仕入債務の増減額」19億76百万円等による減少の結果であります。

<投資活動によるキャッシュ・フロー>

投資活動の結果使用した資金は10億3百万円（前年同四半期比34.7%減）となりました。これは主に「有形固定資産の取得による支出」9億83百万円等による減少の結果であります。

<財務活動によるキャッシュ・フロー>

財務活動の結果使用した資金は23億12百万円（前年同四半期比25.2%増）となりました。これは主に「長期借入れによる収入」3億50百万円等による増加と、「長期借入金の返済による支出」11億67百万円、「短期借入金金の純増減額」10億60百万円、配当金の支払額2億34百万円等による減少の結果であります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者のあり方に関する基本方針を定めており、その内容等（会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項）は次のとおりであります。

基本方針の内容

当社取締役会は、上場会社として当社株式の自由な売買を認める以上、特定の者の大規模な買付行為に応じて当社株式の売却を行うか否かは、最終的には当社株式を保有する当社株主の皆様の判断に委ねられるべきものであると考えます。

しかし、総合耐火物メーカーである当社の経営においては、当社グループの有形無形の経営資源、将来を見据えた施策の潜在的効果、当社グループに与えられた社会的な使命、それら当社グループの企業価値ひいては株主共同の利益を構成する要素等への理解が不可欠です。これらを継続的に維持、向上させていくためには、当社グループの企業価値の源泉である、() 伝統の中で蓄積された豊富なノウハウと技術開発力、() 高品質の製品を開発し提供することを可能とする国内外の拠点、() 永年の間に築き上げたお客様・お取引先との信頼関係、() 地域との共生及び環境保全への取組み等を機軸とした中長期的な視野を持った経営的な取組みが必要不可欠であると考えております。当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者によりこうした中長期的視点に立った施策が実行されない場合、当社グループの企業価値ひいては株主共同の利益や当社グループに関わる全てのステークホルダーの利益は毀損されることになる可能性があります。

当社は、当社株式の適正な価値を株主及び投資家の皆様にご理解いただくようIR活動に努めておりますものの、突然大規模な買付行為がなされたときに、買付者の提示する当社株式の取得対価が妥当かどうか等買付者による大規模な買付行為の是非を株主の皆様が短期間の内に適切に判断するためには、買付者及び当社取締役会の双方から適切かつ十分な情報が提供されることが不可欠です。さらに、当社株式の継続保有をお考えの株主の皆様にとっても、かかる買付行為が当社グループに与える影響や、買付者が考える当社グループの経営に参画したときの経営方針、事業計画の内容、当該買付行為に対する当社取締役会の意見等の情報は、当社株式の継続保有を検討する上で重要な判断材料となると考えます。

以上を考慮した結果、当社としましては、大規模な買付行為を行う買付者において、株主の皆様のための判断のために、当社が設定し事前に開示する一定のルール（以下「大規模買付ルール」といいます。）に従って、買付行為に関する必要かつ十分な情報を当社取締役会に事前に提供し、当社取締役会のための一定の評価期間が経過し、かつ当社取締役会又は株主総会が対抗措置発動の可否について決議を行った後のみ当該買付行為を開始する必要があると考えております。

また、大規模な買付行為の中には、当該買付行為が企業価値ひいては株主共同の利益を著しく損なうと認められるものもないとは言えません。当社は、かかる大規模な買付行為に対して、当社取締役会が本対応方針に従って適切と考える方策をとることが、企業価値ひいては株主共同の利益を守るために必要であると考えております。

当社の財産の有効な活用、適切な企業集団の形成その他の会社支配に関する基本方針の実現に資する特別な取組み

当社グループは、基本方針の実現に資する特別な取組みとして、耐火物及び関連事業において競争を勝ち抜くために、拡販とその背景となる顧客満足度の向上を最重要課題に掲げ、営業・生産活動に励むとともに、更なるグローバル化を指向しグループとして事業規模の拡大を追求しております。平成21年10月、当社グループは、事業規模の拡大を通じてどのような経営環境においても総合耐火物メーカーとして業界におけるリーダーの地位を確保し、世界トップクラスの技術競争力・コスト競争力の実現及び原料の安定調達を図り、経営基盤の強化と需要先向け安定供給体制を強化し、更なる成長・発展を目指し、新品品川リフクトリーズとして新たな第一歩を踏み出しました。そして、当社グループは、より安定した収益体質を確立することにより株主の皆様のご期待に応えるべくグループ一丸となって邁進する所存であります。

さらに、当社グループは、株主、お客様・お取引先、地域社会、社員等多くの関係者各位の期待・信頼に応えるべく、収益の拡大による経営基盤の強化を図る一方、社会の信頼を得られる企業であり続けようとする姿勢を徹底することで企業価値ひいては株主共同の利益の向上に努めております。コーポレート・ガバナンスはそのための土台と考え、当社取締役会の活性化及び監査体制の充実をもって経営管理体制の強化を図っております。このような体制整備のほか、当社グループでは情報開示の充実がコーポレート・ガバナンスにとって有効な機能を果たすと考えており、各種の会社情報を適時、適切にかつ積極的に開示することによって、株主の皆様やその他外部からのチェック機能を高め、経営の透明度を高めることを今後とも充実させていきたいと考えております。

会社支配に関する基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み

当社は、平成23年5月12日開催の当社取締役会において、で述べた会社支配に関する基本方針に照らし、「当社株式の大規模買付行為への対応方針」（以下「本対応方針」といいます。）として継続を決議いたしました。

本対応方針の継続について平成23年6月29日開催の第177回定時株主総会に付議し、承認可決されました。

本対応方針は、() 特定株主グループの議決権割合を20%以上とすることを目的とする当社株券等の買付行為、() 結果として特定株主グループの議決権割合が20%以上となる当社株券等の買付行為又は、() 結果として

特定株主グループの議決権割合が20%以上となる当社の他の株主との合意等（いずれにおいても市場取引、公開買付け等の具体的な買付方法の如何を問いませんが、あらかじめ当社取締役会が同意した者による買付行為及び合意等を除きます。）（以下かかる買付行為又は合意等を「大規模買付行為」といい、かかる買付行為又は合意等を行う者を「大規模買付者」といいます。）が行われる場合に、a) 大規模買付者が当社取締役会に対して大規模買付行為に関する必要かつ十分な情報を事前に提供し、b) 当社取締役会のための一定の評価期間が経過し、かつ c) 当社取締役会又は株主総会が対抗措置の発動の可否について決議を行った後に大規模買付行為を開始する、という大規模買付ルールを遵守を大規模買付者に求める一方で、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を著しく損なう大規模買付行為を新株予約権の無償割当て等を利用することにより抑止し、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を向上させることを目的とするものです。

当社の株式等について大規模買付行為が行われる場合、まず、大規模買付者には、当社代表取締役宛に大規模買付者及び大規模買付行為の概要並びに大規模買付ルールに従う旨が記載された意向表明書を提出することを求めます。さらに、大規模買付者には、当社取締役会が当該意向表明書受領後10営業日以内に交付する必要情報リストに基づき株主の皆様への判断並びに当社取締役会及び独立委員会の意見形成のために必要な情報の提供を求めます。

次に、大規模買付行為の評価等の難易度に応じ、大規模買付者が当社取締役会に対し前述の必要情報の提供を完了した後、60日間（対価を現金（円貨）のみとする公開買付けによる当社全株式の買付けの場合）又は90日間（その他の大規模買付行為の場合）（最大30日間の延長がありえます。）を当社取締役会による評価、検討、交渉、意見形成、代替案立案のための期間とし、当社取締役会は、当該期間内に、外部専門家等の助言を受けながら、大規模買付者から提供された情報を十分に評価・検討し、後述の独立委員会の勧告を最大限尊重した上で、当社取締役会としての意見を取りまとめて公表します。また、当社取締役会は、必要に応じ、大規模買付者との間で大規模買付行為に関する条件改善について交渉し、当社取締役会としての代替案を提示することもあります。

当社取締役会は、本対応方針を適正に運用し、当社取締役会による恣意的な判断を防止するための諮問機関として、当社の業務執行を行う経営陣から独立している当社社外取締役、当社社外監査役及び社外有識者の中から選任された委員からなる独立委員会を設置し、大規模買付者が大規模買付ルールを遵守しないため対抗措置を発動すべきか否か、大規模買付行為が当社の企業価値ひいては株主共同の利益を著しく損なうと認められるため対抗措置を発動すべきか否か等の本対応方針に係る重要な判断に際しては、独立委員会に諮問することとします。独立委員会は、対抗措置の発動もしくは不発動の勧告又は対抗措置の発動の可否につき株主総会に諮るべきである旨の勧告を当社取締役会に対し行います。

当社取締役会は、前述の独立委員会の勧告を最大限尊重し、対抗措置の発動もしくは不発動の決議又は株主総会招集の決議その他必要な決議を行います。対抗措置の発動の可否につき株主総会において株主の皆様にお諮りする場合には、株主総会招集の決議の日より最長60日間以内に当社株主総会を開催することとします。対抗措置として新株予約権の無償割当てを実施する場合には、新株予約権者は、当社取締役会が定めた1円以上の額を払い込むことにより新株予約権を行使し、当社普通株式を取得することができるものとし、当該新株予約権には、大規模買付者等による権利行使が認められないという行使条件や当社が大規模買付者等以外の者から当社株式と引換えに新株予約権を取得することができる旨の取得条項等を付すことがあるものとし、また、当社取締役会は、当社取締役会又は株主総会が対抗措置を発動することを決定した後も、対抗措置の発動が適切でないとは判断した場合には、独立委員会の勧告を最大限尊重した上で、対抗措置の発動の停止又は変更を行うことがあります。当社取締役会は、前述の決議を行った場合は、適時適切に情報開示を行います。

本対応方針の有効期限は、平成23年6月29日開催の定時株主総会においてその導入が承認されたことから、当該定時株主総会の日から3年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会終結の時までとします。なお、本対応方針の有効期間中であっても、企業価値ひいては株主共同の利益の向上の観点から、関係法令の整備や、金融商品取引所が定める上場制度の整備等を踏まえ随時見直しを行い、本対応方針の変更を行うことがあります。

なお、本対応方針の詳細については、インターネット上の当社ウェブサイト（アドレス <http://www.shinagawa.co.jp/CorpProf/index5.html>）に掲載する平成23年5月12日付ニュースリリースをご覧ください。

具体的取組みに対する当社取締役会の判断及びその理由

に記載した当社の財産の有効な活用、適切な企業集団の形成その他の会社支配に関する基本方針の実現に資する特別な取組みは、に記載した通り、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を向上させるための具体的方策であり、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではなく、当社の基本方針に沿うものです。

また、に記載した本対応方針も、に記載した通り、企業価値ひいては株主共同の利益を向上させるために導入されたものであり、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではなく、当社の基本方針に沿うものです。特に、本対応方針は、当社取締役会から独立した組織として独立委員会を設置し、対抗措置の発動又は不発動の判断の際には取締役会はこれに必ず諮問することとなっていること、必要に応じて対抗措置発動の可否について株主総会に諮ることとなっていること、本対応方針の有効期間は3年であり、その継続については株主の皆様のご承認をいただくこととなっていること等その内容において公正性・客観性が担保される工夫がなされている点において、企業価値ひいては株主共同の利益に資するものであって、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではないと判断しております。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、4億74百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(6) 主要な設備

前連結会計年度末に計画していた重要な設備の新設のうち、当第2四半期連結累計期間に完了したものは次のとおりです。

会社名	所在地	セグメントの名称	設備の内容	完了年月
イソライト工業(株)	広島県東広島市	耐火物及び 関連製品	太陽光発電設備	平成25年9月

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	377,000,000
計	377,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成25年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成25年11月14日)	上場金融商品取引所名又は登録 認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	94,293,663	94,293,663	東京証券取引所(市場第一部) 札幌証券取引所	単元株式数 1,000株
計	94,293,663	94,293,663	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (千株)	発行済株式総 数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高 (百万円)
平成25年7月1日～ 平成25年9月30日	-	94,293	-	3,300	-	635

(6) 【大株主の状況】

平成25年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
JFEスチール株式会社	東京都千代田区内幸町二丁目2番3号	31,810	33.74
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	東京都中央区晴海一丁目8番11号	4,511	4.78
株式会社神戸製鋼所	神戸市中央区脇浜海岸通二丁目2番4号	3,525	3.74
三井住友信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号	3,268	3.47
富国生命保険相互会社	東京都千代田区内幸町二丁目2番2号	2,000	2.12
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号	1,705	1.81
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内一丁目6番6号	1,659	1.76
ザ チェース マンハッタン バ ンク エヌエイ ロンドン エ ス エル オムニバス アカウン ト (常任代理人 株式会社みずほ銀 行決済営業部)	WOOLGATE HOUSE, COLEMAN STREET LONDON EC2P 2HD, ENGLAND (東京都中央区月島四丁目16番13号)	1,545	1.64
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内一丁目1番2号	1,500	1.59
日本マスタートラスト信託銀行株 式会社	東京都港区浜松町二丁目11番3号	1,404	1.49
計	-	52,928	56.13

(注) 1. 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社4,511千株、日本マスタートラスト信託銀行株式会社1,404千株であります。

2. 株式会社みずほ銀行は、平成25年7月1日付合併により、株式会社みずほコーポレート銀行から社名を変更しております。

(7)【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 13,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 94,040,000	94,040	-
単元未満株式	普通株式 240,663	-	-
発行済株式総数	94,293,663	-	-
総株主の議決権	-	94,040	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が1,000株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数1個が含まれております。

【自己株式等】

平成25年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
品川リファクトリーズ株式会社	東京都千代田区大手町二丁目2番1号	13,000	-	13,000	0.01
計	-	13,000	-	13,000	0.01

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	10,422	11,141
受取手形及び売掛金	¹ 30,062	28,818
有価証券	3,699	4,199
商品及び製品	7,430	7,098
仕掛品	2,474	2,496
原材料及び貯蔵品	5,711	5,397
繰延税金資産	652	634
その他	851	1,751
貸倒引当金	20	26
流動資産合計	61,285	61,513
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	17,063	16,768
機械装置及び運搬具(純額)	4,694	5,003
土地	10,108	10,046
その他(純額)	636	661
有形固定資産合計	32,503	32,479
無形固定資産		
のれん	211	158
その他	458	495
無形固定資産合計	670	654
投資その他の資産		
投資有価証券	9,929	11,882
繰延税金資産	624	517
その他	1,875	1,922
貸倒引当金	206	217
投資その他の資産合計	12,222	14,105
固定資産合計	45,395	47,238
資産合計	106,681	108,751

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	¹ 15,343	13,465
短期借入金	23,221	22,114
1年内償還予定の社債	180	180
未払法人税等	818	591
賞与引当金	1,017	1,026
その他の引当金	23	21
その他	4,287	6,156
流動負債合計	44,891	43,555
固定負債		
社債	2,580	2,490
長期借入金	3,508	2,804
退職給付引当金	5,859	5,909
その他の引当金	760	555
負ののれん	249	165
資産除去債務	157	157
その他	5,826	6,920
固定負債合計	18,941	19,002
負債合計	63,833	62,557
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,300	3,300
資本剰余金	5,041	5,041
利益剰余金	27,708	29,179
自己株式	2	2
株主資本合計	36,047	37,518
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,905	3,153
為替換算調整勘定	17	406
その他の包括利益累計額合計	1,922	3,559
少数株主持分	4,877	5,115
純資産合計	42,847	46,193
負債純資産合計	106,681	108,751

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
【四半期連結損益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
売上高	49,197	47,452
売上原価	40,516	39,799
売上総利益	8,680	7,652
販売費及び一般管理費	6,107	5,953
営業利益	2,573	1,699
営業外収益		
受取利息	8	6
受取配当金	65	76
保険配当金	76	74
為替差益	-	71
負ののれん償却額	84	84
持分法による投資利益	10	-
その他	134	134
営業外収益合計	380	448
営業外費用		
支払利息	220	187
為替差損	71	-
持分法による投資損失	-	38
その他	75	87
営業外費用合計	367	313
経常利益	2,586	1,834
特別利益		
固定資産売却益	16	845
特別利益合計	16	845
特別損失		
固定資産処分損	3	34
投資有価証券評価損	1,081	-
会員権評価損	0	0
減損損失	54	38
環境対策費	52	36
特別損失合計	1,192	109
税金等調整前四半期純利益	1,411	2,570
法人税、住民税及び事業税	533	634
法人税等調整額	42	101
法人税等合計	490	735
少数株主損益調整前四半期純利益	920	1,834
少数株主利益	178	112
四半期純利益	742	1,722

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	920	1,834
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	296	1,281
繰延ヘッジ損益	0	-
為替換算調整勘定	69	580
持分法適用会社に対する持分相当額	6	24
その他の包括利益合計	219	1,886
四半期包括利益	700	3,721
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	521	3,370
少数株主に係る四半期包括利益	179	350

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,411	2,570
減価償却費	1,204	1,181
減損損失	54	38
のれん償却額	53	52
負ののれん償却額	84	84
貸倒引当金の増減額(は減少)	4	4
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	78	99
退職給付引当金の増減額(は減少)	83	40
前払年金費用の増減額(は増加)	13	36
賞与引当金の増減額(は減少)	23	5
環境対策引当金の増減額(は減少)	60	105
受取利息及び受取配当金	74	83
支払利息	220	187
持分法による投資損益(は益)	10	38
投資有価証券評価損益(は益)	1,081	-
固定資産売却損益(は益)	19	845
固定資産処分損益(は益)	3	34
売上債権の増減額(は増加)	848	1,459
たな卸資産の増減額(は増加)	623	785
仕入債務の増減額(は減少)	2,012	1,976
未払消費税等の増減額(は減少)	21	67
未払金の増減額(は減少)	216	2,330
未払費用の増減額(は減少)	99	16
その他	442	121
小計	3,079	5,326
利息及び配当金の受取額	97	121
利息の支払額	217	180
法人税等の支払額	855	854
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,104	4,412
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額(は増加)	22	32
有価証券の純増減額(は増加)	0	0
有形固定資産の取得による支出	1,039	983
無形固定資産の取得による支出	11	39
子会社株式の取得による支出	9	43
長期貸付けによる支出	600	-
その他	100	30
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,537	1,003

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	98	1,060
長期借入れによる収入	350	350
長期借入金の返済による支出	2,099	1,167
社債の発行による収入	395	-
配当金の支払額	233	234
少数株主への配当金の支払額	97	111
その他	62	88
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,847	2,312
現金及び現金同等物に係る換算差額	11	146
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	1,268	1,242
現金及び現金同等物の期首残高	9,480	10,153
現金及び現金同等物の四半期末残高	8,211	11,395

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(1) 持分法適用の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間より、ITM-UNIFRAX株式会社はその重要性が増したため、持分法適用の範囲に含めております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、前連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の連結会計年度末日満期手形が連結会計年度末日残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
受取手形	199百万円	- 百万円
支払手形	12	-

2 保証債務

連結会社以外の会社の金融機関等からの借入に対し、債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
フォスター エンジニアリング プライベート Ltd.	189百万円	194百万円

3 受取手形割引高及び受取手形裏書譲渡高

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
受取手形割引高	38百万円	40百万円
受取手形裏書譲渡高	975	35
(うち連結会計年度末日満期手形)	(146)	(-)

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
運送費	1,044百万円	1,013百万円
給料賃金	1,558	1,555
役員退職慰労引当金繰入額	48	51
賞与引当金繰入額	278	267
退職給付費用	215	113

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
現金及び預金勘定	8,502百万円	11,141百万円
有価証券勘定	3,700	4,199
計	12,202	15,341
預入期間が3か月を超える定期預金	290	246
取得日から償還日までが3か月を超える短期投資等	3,700	3,699
現金及び現金同等物	8,211	11,395

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	235	2.5	平成24年3月31日	平成24年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間
末後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年11月5日 取締役会	普通株式	235	2.5	平成24年9月30日	平成24年12月3日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	235	2.5	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間
末後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年11月6日 取締役会	普通株式	235	2.5	平成25年9月30日	平成25年12月2日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	耐火物及び 関連製品	エンジニ アリング	不動産・ レジャー 等	合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
売上高						
外部顧客に対する売上高	36,382	11,510	1,303	49,197	-	49,197
セグメント間の内部売上高 又は振替高	3	121	292	417	417	-
計	36,386	11,631	1,596	49,615	417	49,197
セグメント利益	2,481	164	554	3,200	626	2,573

(注)1. セグメント利益の調整額 626百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	耐火物及び 関連製品	エンジニ アリング	不動産・ レジャー 等	合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
売上高						
外部顧客に対する売上高	34,968	11,230	1,253	47,452	-	47,452
セグメント間の内部売上高 又は振替高	5	109	192	308	308	-
計	34,974	11,340	1,446	47,761	308	47,452
セグメント利益	1,430	257	609	2,297	598	1,699

(注)1. セグメント利益の調整額 598百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(企業結合等関係)
該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	7円87銭	18円27銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	742	1,722
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	742	1,722
普通株式の期中平均株式数(千株)	94,284	94,281

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)
該当事項はありません。

2【その他】

第180期(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)中間配当については、平成25年11月6日開催の取締役会において、平成25年9月30日の最終の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	235百万円
1株当たりの金額	2円50銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成25年12月2日

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年11月14日

品川リフラクトリーズ株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 小林 茂夫 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 紙本 竜吾 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている品川リフラクトリーズ株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、品川リフラクトリーズ株式会社及び連結子会社の平成25年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。